

# ワケ カタチには理由がある(103)

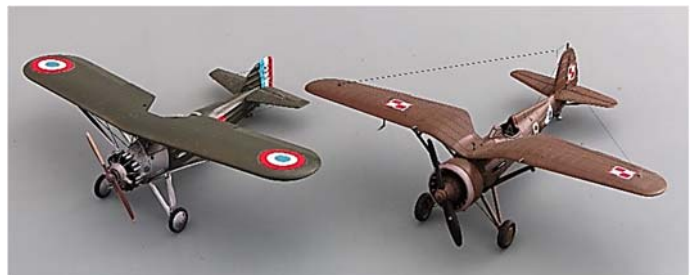
Shape follows Function  
& Taste

## ～モランソルニエ MS230 練習機



ポーランドの PZL11c と(パラソル翼からガル翼へ) ↓

本機 MS-230 は、1930 年代のフランスの練習機です。日本の「赤とんぼ」や英国の「タイガース」などに該当する機体です。(『星の王子様』の)サン・テクジュペリもこの機体に乗ったかも?と想像すると楽しいです。フランス軍はドボワチン 371、ロワール 47



等、頻繁にパラソル翼機を採用した国との印象ですが、この機体もその系統上にありました。1930 年代の主力戦闘機から、高翼機形式は徐々に姿を消しますが、ドイツ軍がポーランドに侵攻した際、自国の守りで意地をみせたポーランド軍が PZL P.11c という機体でパラソル翼を改良した逆ガル翼形式の戦闘機を使用しており、最後の灯がここに残りました。ショパン、キューリー夫人などフランスとポーランドの絆は強く、飛行機の形状にもそのことを感じます。

### 【模型について】

チェコのスミエル製 1/72 のインジェクションキットですが、金型はフランス・エレール(Heller)の古いキットです(1970 年代のもの)。昨年初夏に開かれていた新橋駅の古本市にて、300 円で売っていた中古品が目にとまり、購入して気楽に 1 週間ぐらいで組みましたが(デカルは使えなかったもので、プリンタで自作したり流用したりしました)、改めてキットの表現の良さに驚きました。エレール社の自国飛行機への愛情を感じるキットでした。温故知新とはこのことです。(中川裕幸 2023 年 5 月)